

実践の広場

考え議論する道德の授業をつくる：洗練か、破壊か

－「奪われた自由」の実践から－

吉田今日子\*、河村 誠\*\*、高田直樹\*\*\*、三枝佑輔\*\*\*\*、上田 学\*\*\*\*、杉山俊介\*\*\*\*、  
紅林伸幸\*\*\*\*\*

The Lesson of Morality in which children can think and discuss.

Kyoko YOSHIDA, Makoto KAWAMURA, Naoki TAKADA, Yusuke SAIGUSA,  
Manabu UEDA, Syunsuke SUGIYAMA, Nobuyuki KUREBAYASHI

平成30年度より小学校で「特別の教科 道德」がスタートし、学校現場は新しい企画に沿った道德の授業の構築に取り組んでいる。学習指導要領に示された道德科の授業は、何でもありのフリープランであり、その効果のある実践は教師たちの手に委ねられていると言ってよい。そこで、本報告では、現場教員と道德研究者が協働し、主体的で対話的で深い学びを実現する「考え議論する道德」を道德の学習支援ツールの活用に焦点を当てて、議論し、それらの活用の意義について検討する。学習支援ツールは、道德の授業の方向付け、その展開可能性を制約する。学校現場がどれだけ多様な学習支援ツールを持つことができるかが、道德科の授業の未来を左右すると言ってもよいだろう。

キーワード

「特別の教科 道德」、主体的で対話的で深い学び、道德の学習支援ツール、考え議論する道德、奪われた自由

1 問題の所在

小学校で「特別の教科道德」がスタートして半年が経つ。しかし、学校現場は、未だ混乱の中にある。その要因の一つは「これまでの道德と何を変えたらよいのか」が把握できていないことにある。カリキュラム的には特別の教科になったことで大きく変わった。しかし、実際に授業をつくる教師にとっては、これまでと同じ教材が使われていたり、逆にこれまで以上に書く作業が重視されたりと、何をどのようにして授業を進めればよいのか戸惑うばかりだ。

そもそも道德が教科化された背景の一つとして、いじめ問題の対応が挙げられる。平成25年に教育再生実行会議は、いじめ問題への対応について審議し、「いじめの問題等への対応について」の提言を示した。これをきっかけに、中央教育審

議会では、道德教育専門部会を設置して審議を重ね、平成26年に「道德に係る教育課程の改善等について」を答申した。答申では、道德教育で養う「道德性」は人格の基盤であり、その道德性を育てることが道德教育の使命であるとしている。また、道德教育においては、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を前提に、人が互いに尊重し協働して社会を形作っていく上で共通に求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むとともに、人としてよりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きるべきかなどについて時には悩み、葛藤しつつ考えを深め自らの生き方を育んでいくことを求めている（p.2）。

答申に書かれている内容は、これまでの道德が目指してきたものと大きく変わりはない。しかし、「特別の教科道德」を進める上で変えていくべき

\* 富士市立岩松北小学校 平成26年度学部卒院生 \*\* 富士市立富士見台小学校 平成28年度現職派遣教員院生  
\*\*\* 浜松市立芳川北小学校 平成29年度現職派遣教員院生 \*\*\*\* 平成30年度現職派遣教員院生  
\*\*\*\*\* 常葉大学教職大学院教授

ことは、子どもの発達段階に応じて、答えが一つではない課題を一人一人の子どもが道徳的な問題としてとらえ、向き合う「考える道徳」「議論する道徳」に転換することである（赤堀 p. 45）”。考えること、議論することはこれまでも行われてきたかもしれないが、新しい道徳の学習では今までのように「〇〇さんはどのような気持ちだったでしょう」と登場人物に共感させたり、資料を読んだ後に自分の生活と重ね合わせていくという決まりきった展開形式で授業を進めたり、終末部を教師の説話で終わったりすることにこだわらなくてよい。また、「議論する」ことが独り歩きし、展開部で無理やり子どもの意見を二者択一にしてぶつけ合わせるようにするものでもない。“「考える」とは、道徳的価値及び、それに関わる事象を子どもが主体的に考えることであり、「議論する」とは、子どもと教師が、また子ども同士が話し合いなどの対話的な学びを通して、自己の生き方、あるいは人間としての生き方についての考えを深めることができるような授業を意味している（赤堀 p. 45）”。つまり、子どもが多面的・多角的に考え、一人ひとりが自分事として話し合えていることが大事なのである。しかし、それが簡単でないことは、現場教師なら誰もがよく知っていることだ。

本プロジェクトでは、《考え、議論する道徳》をつくるための手がかりを仮説検証的に探索し、その成果を批判的かつ建設的にディスカッションすることによって現場で共有可能な知見に高めたいと思う。（三枝佑輔）

## 2 本報告の視角：学習支援ツールの工夫 —《考え、議論する道徳》の3つの視角から—

議論に先立ち、本報告の基本的な視角を示しておきたい。道徳の授業において子どもたちが主体的に考え、議論するために教師が行うべきこととしては、発問の工夫、授業過程の工夫、学習形態・学習方法の工夫が考えられる。本報告が焦点をあてるのは、学習形態・学習方法の工夫である。それは以下の理由による。

第1は、学校現場での議論が、発問の工夫と授業過程の工夫に集中しがちだからである。とりわけ発問は学校現場において重視される傾向がある。それは、発問が学習内容及び内容項目に直結しているからであり、議論のテーマの設定が重要

と考えられているからだろう。授業過程の工夫もそれに関連している。授業過程は発問に基づいて構成され、発問を効果的に機能させるためのものだからである。一方、学習形態や学習方法を学習内容と切り離して、自律したツールとして扱うことには、教育技術法則化運動（TOSS）に対する批判をはじめとして抵抗感が強い。けれどもツールを開発し、それを活用することは、人類の英知の一つである。私たちはツールにとらわれることなく、適切に活用する側に立たなければならない（紅林 1992）。

第2は、道徳の学習において「議論する」ことは想定されているよりもはるかに難しく、内発的動機づけだけで効果的に実施できないことが、コールバーグのモデルにおいて明らかにされているからである。我が国の学校現場でもよく用いられているモラル・ディスカッションの提案者であるL・コールバーグは、自らが行ったその実験的実践において、モラル・ディスカッションが現在の学校組織において効果的に実施できないことを見出し、モラル・ディスカッションのできる学校、ジャスト・コミュニティに学校が変わることの必要を提案した。ジャスト・コミュニティの詳細は別稿に譲るが、要は外的な状況要件の如何でディスカッションの質は代わるということである。ちなみに、コールバーグは参加者の平等性を重視しジャスト・コミュニティという着想に至ったわけであるが、そのためにコミュニティの組織体制を整え、モラル・ジレンマ教材を用意している。モラル・ディスカッションを行うためにはそのためのツールが必要なのだ。

第3は、発問の重視は、学習形態や学習方法等の多能性を極度に制約してきた。学習指導要領では、多様な学習形態や学習方法を用いることが奨励されているが、そもそもそのレパートリーを道徳の授業は蓄積してきていない。使えるツールが決定的に不足しているのだ。したがって、選択可能な学習形態や学習方法のストックを増やす必要がある、それが教科化の始まった現場のニーズなのだ。

以上のことから、本報告では学習形態や学習方法に焦点を絞り、具体的な提案を行うと共に、それらの道徳教育上の効果について検討する。なお、本報告では以下、学習形態・学習方法の工夫を学習支援ツールの工夫として、若干拡大して取り扱

う。広い意味での学習支援ツールとして理解することによって、学習形態・学習方法を発問と切り離し、独立して取り扱うことが可能になると共に、発問や学習課題の構成も学習支援ツールとして議論することが可能となるからである。

本報告では、本教職大学院の修了生である河村誠教諭と高田直樹教諭に学習支援ツールに焦点をあてた授業提案を行っていただく。河村実践は、子どもが自分の考えた意見を個人用ホワイトボードに記入し、それを持って自分から友達の見聞を聞きに行くという活動を取り入れたものである。一方、高田実践は、教師の指名なしで、子ども同士で自由に発言をさせ、教師がそれらの発言を黒板上で関連づけたりまとめたりすることで、子どもたちに考える手がかりを与えて話し合いを進めるものである。2つの実践は、子どもたちが自分の立場を明らかにした上で、友達と話し合い、友達の意見を上手に取り入れながら自分の意見を変容させているという点では共通しているが、その手続きとコンセプトは大きく異なっている。それらを、本報告の議論で紹介していくことにしよう。

(三枝佑輔・紅林伸幸)

### 3 河村実践

#### (1) 授業のねらい

授業の自由を大切にしながらも自律的に判断し、責任ある行動をとることを大切にする心情を育てる。

#### (2) 実践上の工夫

① 導入時に、以前行った教室での席替え場面を映像で提示し、一部の人が享受する自由は、本当の自由ではないということに気づかせる。

② フリップボードに自分の意見を書いて可視化できるようにし、学級全員の意見をもとに議論が活性化できるようにする。

③ 終末の振り返りでは、授業のねらいが将来につながる基礎的・汎用的能力（「周りの人となつなめる力」「めあてや課題を見付ける力」「約束やきまりを守る力」と関連づけて考えるように促し、具体的な実践へとつなげる。

#### (3) 授業構想

段階	学 習 活 動 ○発問 ◎主発問	留意点および支援○ 評価□
導入	<p>1 自由とは何かについて考えるきっかけをもつ。</p> <p>○ 自由とはどういうことでしょうか。</p> <p>・好き勝手にやってよいということ。</p> <p>・自由だと、一部の人だけが都合よくなってしまふ。</p> <p>本当の自由とは何か考えよう。</p>	<p>○ 自由について考える契機となるように、以前に行った席替えの場面を映像で見せる。</p> <p>○ 価値の焦点化を図るために、本時の学習テーマを提示する。</p>
	<p>2 資料「うばわれた自由」を読み、話し合う。</p> <p>○ 「みんな、したいことをしたいようにできる自由な暮らしを望んでおるのだ。」と言った時のジェラルは、どんな思いだったのでしょうか。</p> <p>・うるさいやつだな。</p> <p>・私は王子だから特別だ。</p> <p>○ ろうやの中でガリユーと再会し、はらはらと涙を流した時のジェラルは、どんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>・なぜあの時にガリユーの話を真剣に受け入れなかったのだろう。</p> <p>・私は自分のことしか考えていなかったのだな。</p> <p>・私のせいで国をだめにしてしまった。</p> <p>・ああ、私の自由がうばわれてしまった。</p> <p>○ 先にろうやを出たガリユーに「本当の自由を大切にしましょう。」と言われた時のジェラルは、どんなことを考えたのでしょうか。</p>	<p>○ ジェラルに自我関与しながら自己を見つめさせるために、ジェラルの気持ちになって話を聞かせる。</p> <p>○ 自律性を伴わない自由（自分勝手）について話し合わせる。</p> <p>○ 自由をはき違えていたことに気付いたジェラルに自我関与して話し合うことを通して、本当の自由についての考えを深めさせる。</p> <p>○ 出された意見を「後悔」や「絶望」などの感情で整理して板書する。</p> <p>○ ガリユーの言う「本当の自由」について、ジェラルになりきってセリフを考えさせることで、正しい自由の使</p>

展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ああ、ガリユーの言うとおりで。(謙虚さ)</li> <li>・これから周りの人のことも考えよう。(反省)</li> <li>・もし出られるのなら、国をよくしていきたい。(希望)</li> </ul> <p>◎ ジェラルールの気持ちについて話し合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ろうやに入れられたジェラルールは、ようやく自分が「わがまま勝手」だったことに気づいた。</li> <li>・ろうやでガリユーと再会して、「本当の自由」のもつ意味を理解することができた。</li> <li>・ジェラルールはろうやに入れられてしまったけれど、ガリユーの言葉で、これからの希望をもつことができたのだと思う。</li> </ul> <p>3 自分の生活について振り返る。</p> <p>○ みなさんには自由に任されていることがたくさんあります。どんなことを大切に行動してきましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昼休みに自分だけが楽しく遊ぶだけでなく、1年生と一緒に遊ぶことで1年生に喜んでももらえるように遊んだら、1年生も私もとても楽しかった。</li> <li>・委員会活動で集会の内容を決めるのを任されたとき、全校のみんなが楽しめる活動について考えた。</li> </ul> <p>4 教師の説話を聞く。</p> <p>本当の自由と自分勝手をはき違えて失敗した経験と、責任を伴った自由のよさを味わった経験談を話す。</p>	<p>い方について考えを深めさせる。</p> <p>○ 出された意見を、「謙虚さ」や「反省」、「希望」などの感情で整理して、先の発問に対する意見と対応させる。</p> <p>○ セリフを考えた理由について学級全員の意見を可視化するためにフリップボードを用いて提示させた上で、異なる意見や共感できる意見について気づかせ議論の活性化を図る。</p> <p>○ 意見が硬直化した際には、教師が「なぜ」と問い返し、話し合いを深化させる。</p> <p>○ 自分との関わりで、自由に任されていることについて振り返らせ、自分の立ち振る舞いについての考えを深めさせる。</p> <p>○ 説話によって、子供自身の行動が価値づけられるようにするとともに、将来への展望をもたせる。</p>

### (3) 授業構想

授業記録 河村実践		
時間	発言	発言・行動（発言以外は斜字）
0:00	t	<b>導入</b> 今日みんなに道徳の勉強してもらうのはこれです。※黒板に板書「自由とは何か」自由とはどういうことだと思いますか。
	S1~5	何でもやって良い。何にも縛られていない。自分の好きなことを何してもいい。自分が楽になれる。時間を気にせず何をしてもいい。
2:10	t	<b>VTRを見る</b> 昨日同じような場面をしたのを覚えてる？ ※電子黒板→VTR〈昨日の席替えの場面〉
	t	席替え自由が良くて聞いたとき、みんな手を挙げたよね。自由が好きの人 ※ほぼ全員が挙手 → 理由を発表
	S6~9	何してもいいので、毎日が楽しい。親とかに宿題しなさいとか言われた時のイライラがない。 注意されるとムカムカするし、自由にしたほうが自分がやりたいことができる、自分の想像した時間が過ごせる。
4:30	t	この席替えの時はなかったけど、自由が好きじゃないって人はいますか。※誰も挙手しない。 じゃあ、今日の休み時間も明日の授業も、全て自由にしますよ。 S全体「やった！帰る。プールに飛び込みに行く。寝る。」等自由に発言
	t	そういうのを毎日続けるって言ったら？ S全体「やった！うれしい！」等自由に発言
5:30	t	自由ってみんな良いなって思ってるんだね。でも本当の自由って何だろう？ これまで自由って考えたことある人？今まで考えたことある人？（誰も挙手しない）あんまり深く考えたことない人（ほとんどの子が挙手）
	t	今日は本当の自由について考えます。授業の始めと終わりでどんなことが変わったのか、ワークシートに書ければ、本当の自由について考えたことになります。頑張りましょう。（本時の目当てを板書） → S全体「本当の自由とは何かについて考えよう」
	t	<b>資料の提示</b> 今日みんなに読んでもらいたいのはこれです。 S全体「うばわれた自由」
8:30	t	（登場人物の簡単な紹介）→みんなは王子のつもりになって考えてください。→（授業者が資料を音読する）
14:00	t	<b>場面の振り返り1</b> この時王子はどんな気持ちで言ったのだろう。王子の立場で考えてみよう。※(王子「みんな望んでおるのだ」)を掲示
	S10	さっき、みんなが手を挙げたようにみんな自由が好きなので、自分も思っているし、みんな思っているから一人の意見は通せないと思った。
	t	周りの人と相談してみようか。 ※子どもたちは周りの人たちと意見交換
	S11~13	やりたいことをやれる楽しい生活がいい。みんなって言えば自分だけじゃないってことになる。自分だけが自由が良いと思っているわけじゃない。
	t	なぜ、自分だけが自由が良いって王子は思うんだろう？



考え議論する道徳の授業をつくる：洗練か、破壊か

	S14	たくさん、好きなことをやりたいって思った。
	t	そんな王子はどうなったかな？ S全体「王になったけど自由を奪われた。牢屋に入れられた。」等自由に発言
18:30	t	そうだね、牢屋に入った王は、そこでガリューに出会ったんだね。 ※場面絵を提示
	t	場面の振り返り2 このとき、王ははらはらと涙を流したんだね。 「あのとき、お前の言葉を受け入れて、わがままな心を正すことができたならば、このように国も乱れることもなかっただろうに。」 このとき、王は一体どんなことを考えていたのでしょうか？
	S15	やっぱり、あのときにガリューの言うことを聞き入れて、あんなことを言わなければ良かった。
	t	じゃあこれも周りの人と確認してください。※王が後悔していることを周りの子と意見交換する。
	S16~S21	後悔した。自分が間違っている。きまりを守ればよかった。これでは自由が成り立たない。自分がしっかりしないといけなかった。
		《ここで王とはどういう立場の人間なのか、王の役割について全体で意見をまとめ、自分勝手な王だから牢屋に入れられることを確認した》
	t	場面の振り返り3 牢屋を先に出たガリューは「あなた様もきっとここから出られる日が来るでしょう。そうしたら御一緒に本当の自由を大切に生きてまいりましょう」と言って去っていったね。話はここで終わるんだけど、ここでみんなでこの言葉を読んでみよう。 ※掲示したものを全員で読む
	t	意見交換 「本当の自由を大切にしましょう。」これを聞いたときに王はどんなことを考えたのでしょうか？※席の配置を変え、各自クリップボードに記入。
	t	いろいろ意見が分かれたね。クラスを半分に分けて質問しましょう。 ※廊下側と窓側に分かれて、それぞれ提示と質問を交互に行う。
	S発言例	〇さんで、私はガリューに謝るのもそうだと思うんだけど、私は本当の自由とは何だろうと書いたんですけど、なんで謝ろうと思ったんですか？
	S発言例	ガリューの言うことを聞いていたらこんなことになっていなかったし、ガリューを長いこと牢屋に入れることもなかったからです。
		《質疑応答の後、子どもたちは自由に動いて、お互い意見交換をする。教師も動きながら子どもたちの話し合いの様子を見守った》
	t	自分がなぜそう書いたのか、みんなに紹介できる人はいますか？
	S22	私は本当の自由とは何だろうと書きました。今まで王子の時は自分のことだけの自由と思っていたと思ったんだけど、最後はガリューが本当の自由と言っていたので、今まで王が自由と思っていたのが間違っていたのかもしれないから「本当の自由」と付け出したんだと思います。
	S23	私は本当の自由とはどんなことだろうと書いたんですけど、理由は王子はまだ牢屋の中にいて、本当の自由を知らないから、牢屋から出た時に本当の自由はどんなものだろうと考えたと思います。
	S24	僕は、「ガリューは私のことをうらんではいないのか、感謝だ。」です。これは、王は昔ガリューに牢屋に入れて、ガリューは王のことを恨んでいると思っていたんだけど、この言葉を聞いて、王は感謝したと思う。
	S25	僕が「ありがとう」と書いた理由は、王子はガリューにいけないことをして、本当は恨んでいたのかもしれないけど、本当の自由ということを教えてくれて、ありがとうと思った。
	S26	自分が間違っていた。自分が牢屋から出たら、ガリューは先に牢屋から出て自分のために頑張っているから、自分も牢屋からでたら、本当の自由を見つけるために頑張ろうと思った。
	t	みんなは今、自由が良いって言っていたんだけど、自由が任されていることってあるよね。例えば、自主勉強、それから係活動は自分たちで内容を決めて頑張っているよね。他に何がある？
	S全体	委員会活動、総合的な学習の時間、自由研究、感想文、休み時間
	t	自由が任されている中で、みんなが今日の勉強をしてきて、自由なんだけど、どんなことを大切にして行動してきたのか、紙に書いてください。 学校の生活の中でどんなことを大切に頑張ってきましたか？
	S27	周りの人とのつながりです。周りの友達がいなくなると自分の遊ぶ人がなくなるのと同じで、楽しみがなくなる。 わかってくれる人がいなくなると信頼される人がいなくなる。
	S28	周りの人の意見を聞いていれば、答えに近づけるかもしれないから、周りの人は大切。
	t	教師が考える自由について 先生は自由が好きな。好き勝手出来るから。けれども自由のままだと、結局どこかで失敗するね。他の人に迷惑をかけたりもするよね。S27さんやS28さんが言ったように周りの人とながら力を大切に自由を楽しんでいます。他にも本当の自由を身に着ける力って何があるかな。
	S29	私が考えたのは、誰でも仲良くなれる力だと思います。席替えの時、自由が良いと思っていたけど、自由でもいろんな人とは仲良くできなくて、いつも仲良く、ずっとそばにいる子としか隣になれない。だからきまりを守って誰でも仲良くできるようにならないといけないと思いました。
	S30	僕はきまりを守る力、本当の自由は、きまりを守りながら自由になることが本当の自由だと思いました。
	t	今日の道徳はこれで終わりますが、本当の自由のためにこれから高めていきたいことを書いて提出してもらいたいと思います。

(河村誠・上田学)



#### 4 高田実践

##### (1) 授業のねらい

6年生になり、様々な面で判断力が身に付き、自分の考えに従って行動できるようになった子どもたちが、ジェラルやガリユーの自由に対する考えを理解し、ジェラルの心の移り変わりを考えることを通して、自由を大切にしながら、自律的に判断し、責任ある行動をとることを大切にしようとする心情を育てる。

##### (2) 授業構想

☆評価 ○留意点 ◎教師の支援

予想される子どもの活動 ・ 教師の支援及び評価																																			
<p>1 アンケート結果を発表する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>「次回の席替えが自由だったら、どんな気持ちになるか。」</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>・嬉しい。やった～！ ・ウキウキする。 ・好きな友達と一緒にになれる。</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>びみょう。 ・うまいかかないと思う。 ・嬉しい人もいけど、不安な人もいるかも。</p>  </div> </div> </div> <div style="width: 45%;"> <p>○どんな意見が多かったかを考えることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。</p> </div> </div>																																			
<p>2 資料「うばわれた自由」の前半部分を読み、ジェラルとガリユー気持ちを話し合う。</p> <p>○子どもたちの本音が見えるよう2人の言葉の納得度を4段階で表し、意見を集約する。</p> <p>○話の内容が十分に理解できるように、登場人物とそのプロフィールを紹介する。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="width: 45%;"> <p>【ジェラル】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>なっとくできない</th> <th>少しなっとく</th> <th>まあまあなっとく</th> <th>かなりなっとく</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・きまりを守らない。</td> <td>・王子だから仕方ない。</td> <td>・ぼくも、そう言っちゃうかも。</td> <td>・自由なのだから、そう思う人もい</td> </tr> <tr> <td>・人の話を聴け。</td> <td>・ちょっとくらいいいのでは。</td> <td>・酔っているから仕方ない。</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・権力者でらしい。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 45%;"> <p>【ガリユー】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>なっとくできない</th> <th>少しなっとく</th> <th>まあまあなっとく</th> <th>かなりなっとく</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・王子にそんなことで逆らうな。</td> <td>・王子であつてもきまりを守ってほしい。</td> <td>・国のことをよく考えているなあ。</td> <td>・王子であつてもきまりは守らないといけない。</td> </tr> <tr> <td>・一人で言うのは危ない。</td> <td>・王に言っても無理。</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </div> </div> <p>◎自分の考えを全体で表現するのが苦手なY・MさんやE・Yさんを意図的に指名するなど、全員を話し合いの土台に乗せる。</p> <p>○ネームプレートを活用し、友達の考えをもとに、自分の立場を途中で変えてもよいことを伝える。</p>								なっとくできない	少しなっとく	まあまあなっとく	かなりなっとく	・きまりを守らない。	・王子だから仕方ない。	・ぼくも、そう言っちゃうかも。	・自由なのだから、そう思う人もい	・人の話を聴け。	・ちょっとくらいいいのでは。	・酔っているから仕方ない。		・権力者でらしい。				なっとくできない	少しなっとく	まあまあなっとく	かなりなっとく	・王子にそんなことで逆らうな。	・王子であつてもきまりを守ってほしい。	・国のことをよく考えているなあ。	・王子であつてもきまりは守らないといけない。	・一人で言うのは危ない。	・王に言っても無理。		
なっとくできない	少しなっとく	まあまあなっとく	かなりなっとく																																
・きまりを守らない。	・王子だから仕方ない。	・ぼくも、そう言っちゃうかも。	・自由なのだから、そう思う人もい																																
・人の話を聴け。	・ちょっとくらいいいのでは。	・酔っているから仕方ない。																																	
・権力者でらしい。																																			
なっとくできない	少しなっとく	まあまあなっとく	かなりなっとく																																
・王子にそんなことで逆らうな。	・王子であつてもきまりを守ってほしい。	・国のことをよく考えているなあ。	・王子であつてもきまりは守らないといけない。																																
・一人で言うのは危ない。	・王に言っても無理。																																		
<p>3 資料の後半部分を読み、ジェラルの涙のわけについて話し合う。</p> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どうしてジェラルは、牢屋で会ったガリユーの前で泣いたのか？</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>【後悔】</p> <p>・わがままな心で国が乱れてしまったことを後悔しているから。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>【他者意識】</p> <p>・自分のことしか考えていなかったのを今になって分かったから。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>【責任】</p> <p>・自分のせいでガリユーまで牢屋に入ることになってしまい、謝りたいから。</p> </div> </div> <p>◎周りの発言を聞きながら、自分の考えをまとめることができるC・HさんやI・Kさんに発言の機会を与える。</p>																																			
<p>4 「本当の自由」とは何かをガリユーの気持ちをもとに考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・本当の自由とは、自分がしたいだけのわがままではなく、身勝手なものではない。</p> <p>・本当の自由は、きまりを守り、周囲の迷惑にならないようにし、自分のしたいことをすることだ。</p> <p>・自由を大切にするためには、自分と同じように周りの人の自由も大切にすることが必要だ。</p> </div>																																			
<p>5 教師の説話を聞く。</p> <p>○今の自分の姿を想起し、今後の生活に生かせるような教師の体験談を話し、これからの自分について考えを書くように指示する。</p> <p>☆自由を大切にしながら、自律的に判断し、責任ある行動をしようとしている。(発表・ノート)</p>																																			
<p>6 本時の学習の感想を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自由であっても、周りの人や友達の気持ちを大切にしながら、生活していきたい。</p> <p>・自由に席替えをしたり、グループを作ったりするときにも、責任をもって行動したい。</p> </div>																																			

(3) 授業過程

授業記録 高田実践		
時間	発言者	発言・行動
	T	もしも席替えが自由になったらどういう気持ちになるか。
		(事前にアンケートを取り、教師がまとめたものを掲示する)
		うれしい13人    うれしいけれど7人    ちょっと反対3人    だめでしょ9人
	S1	複雑な気持ち。好きな人同士で一人だけあまったり、嫌な人となったりする人がいてクラスが乱れそう
	T	今日は自由について考えてほしい
3:05		資料「うばわれた自由」(登場人物を紹介後、教師による朗読) ※資料配布は物語の途中まで
7:29	T	みなさんはジェラルールとガリユーの気持ちにどれくらい納得できますか。
		「かなり納得・まあまあ納得・ちょっと納得・納得できない」の中から選択する。
9:30		自分の考えを書く
12:30		ハンドサインで意思表示 ジェラルール:ほとんどの子が納得できない。数名ちょっと納得。 ガリユー:ほとんどの子がかんり納得。数名まあまあ納得。
13:30	T	どうしてそう思ったの?隣の子と話してみよう。
14:56	T	どうしてそうしたのか意見を交わしてみよう。
		初めの2名まで指名。その後は自主起立で言いたい子が発表する
	S2	納得できない。国の決まりを破っているから。
	S3	自分のわがままばかりで人の気持ちを無視している。
19:16	S4	国の決まりだけど、少しは自分のしたいことをしたい。
	S1	学校のルールもそうで、下校中だけど寄り道したくなる。
	S5	確かに決まりを破ることは悪いけど、決まりだからと言って何でもだめだと楽しめない。
26:20	T	ジェラルールとガリユーの自由は同じ?
	S	ちがう
	T	ガリユーは?
	S6	決まりを守っているから納得しました
	S7	王子様だから注意したら殺されるかもしれないけど、正しいことをしたからかなり納得
32:56		物語の続きを読む
	T	ジェラルールはなぜ涙を流したんだと思いますか?(ノート)
38:41		教師による指名で発表
	S8	注意を聞いておけばよかったという悔しい涙。
	S9	罪もない人間を捉えて、自分がどんなに悪いことをしてのか反省した。
	S10	自分のわがままがわかったから涙を流した。
43:37	T	今日の学習から本当の自由って何だと思いますか?(ノート)
47:00		隣の人と意見交換
	S11	本当の自由とは人に負担にさせないでできる範囲で自由にする
	S12	ちゃんと決まりを守って行動すること。ルールを守って平等にしない一人が自由でも他は不自由になる。
	S13	自分の都合のいいことではなく、周りのことも考えて・・・ガンとかで体が不自由とかではなく、病気とかなく普通に暮らすことが自由
	S14	自分のやりたいことをやるけど、周りの人のことも考えて生きられるようにすること
50:55	T	過去の自分の話(席替えが自由になった時があった。)
		自由は難しい。決まりを守ったり、人が困らない中ですることが大事。

#### (4) 授業者による実践後コメント

子どもたちの振り返りは以下の通りであった（原文ママ引用）。

##### 【本当の自由とは】

本当の自由とは、自分勝手やわがままみたいなものではない。後で後悔しない、反省しないような楽しいことや幸せなことだと思う。国が乱れないようにルールというものがあるから、ルールを守るような幸せが本当の自由だと思う。

本当の自由とは、人に迷惑をかけない、そして自分のやりたいこともできる、公開しないのが本当の自由だと思った。

本当の自由とは、自分だけがわがままをするのではなく、自分や他の人も楽しくすることだと思う。

何でもかんでも、自由だとみんなに迷惑がかかるから、きまりやルールを守りながらやりたいことをする。

ちゃんときまりを守って行動するのが本当の自由。ルールを守って、みんな平等にしないと、一人が自由でも他の人や他の人のだけか一人が不自由になってしまう。

本当の自由とは、自分勝手なことばかりをして自由を手に入れるのではなく、例えば学校のルールとか家でのルールとか当たり前のことを守っていけば、国が成り立ち、自由になると思う。自由とは自分だけの物ではなく周りの人と助け合ってできるものだと思った。

##### 【これからに向けて】

ぼくは、この話を通じて、ジェラルルのような後で後悔するような自分勝手なことはいないようにしたい。

人に迷惑をかけないように、休み時間とか仲良くしたいと思います。これからも自由というものをよく考えて行動したいです

わたしは、自由になっても人の気持ちも考えて行動したいと思った。わがままではなく、しっかりと周りを見て行動しようと思った。

自分勝手すぎるのは良くないと改めて分かりました。私もガリユーのように注意できる人になりたいです。

ちゃんときまりを守り、迷惑をかけない。

この学習を通じて、自由と言ったらみんな喜ぶけれど、相手のことも通じて考えていけば成り立つと思う。

本時は班決めという、自分の身近な生活を振り返ることから入り、物語を読み後にもう一度自分の生活について考えさせることができた。「自由」と言われた時の価値やその意味について、考え方を膨らめるようになった。この授業で学んだことを生かしながら、生活しようとしている。一方で、

自由＝良くないという見方に変わってしまった子がいることは問題と受けとめている。なお、実践にあたって、役割演技をさせる選択肢もあったが、子どもの発達段階や実態を考えると難しいと判断した。（高田直樹・杉山俊介）



## 5 ディスカッションⅠ 実践家の立場から

### (1) ディスカッションの意味の相違

「考え、議論する」道徳を目指していく中で、子供たちの実態に合わせた手立てが一時間の授業

の中でいくつもちりばめられていることが分かる。比較していく中で、河村教諭と高田教諭の授業には、3つの論点があると考えた。

#### (1) 河村教諭と高田教諭による授業の比較

	河村教諭	高田教諭
導入	・ICT 機器の活用 子供たちに「席替えは自由です。」と声を掛け、その時の様子を VTR として流し、「自由」に対して子供たちが良い考えを持っていることを押さえた。また、本時のテーマとなる「本当の自由とは？」を電子黒板に写し、何を考えれば良いのか明確にした。	・アンケートの活用 事前に子供たちに「もし席替えが自由になったらどういう気持ちになるか」とアンケートを取り、それぞれの気持ちを明確にした。その中で、「複雑な気持ち」だと考えた一人の児童に焦点を当て、理由を聞いた上で、自由について考え始めた。
展開	・中心人物の提示 資料を読む際に、どんな人物が登場するのか簡単な自己紹介を行った。その際、資料を読む前に「王子のつもりになって考えてください。」と明言しておくことで、児童の着目すべき点を絞った。	・資料の配付 登場人物の紹介後、教師による朗読を行った。子供たちに配布された資料は物語の途中までになっており、登場人物たちがどのような気持ちか、加えてどうなっていくのか想像しながら聞いた。
	・場面の振り返り 押さえておきたい場面の内容をこまめに振り返り、王子がどのような人物であったか全体で確認しておくことで、主題につなげた。	・立場の設定 王子とガリユーの気持ちに対してそれぞれ4段階で納得できるかどうか、聞いた。その際に、ハンドサインを使用し、意思表示をさせることで自分の立場をはっきりさせた。
	・席の配置変え 授業の流れに沿って、話し合いに適した形体に変えた。	・ペアでの意見交換 隣の席の児童同士でどのような考えを持ったのか意見交流を行うことで、一時間の授業の中で発言する機会を得ることにつながった。
	・クリップボードの活用 個人が考えた意見を各自で持っているクリップボードに記入し、どのような意見を考えているのか視覚化した。クリップボードを一斉に見せ合い、気になる意見には質疑応答を行った。その後、子供たちはクリップボードを持って教室を動き、お互いに意見交換を行った。	・個人の道徳ノートの利用 自分の考えた意見を道徳ノートに記入し、これまでの話し合いの意見を聞く中で自分の考えた意見を文章化した。
	・振り返りの記入 教師の説話後、「本当の自由のためにこれから高めていきたいこと」を問い、自分のこととして捉え、考えやすくなるよう振り返りの内容を明確にした。	・記入した意見の発表 道徳ノートに記入した意見をペアで意見交換した後、発表を行った。「本当の自由とは何か」について意見交流を行い、学びを深めた。
終末		

1つ目は、授業の形の違いである。河村教諭の授業は、個人で思考を深めることに重きが置かれている。対して、高田教諭の授業では、共有することで思考を深めている。しかし、方法は違えども、どちらの授業でも、意見交流の場を何度ももつことで、思考を深める手立てにつながっている。

2つ目は、思考ツールの活用である。クリップボードや個人の道徳ノート、黒板の板書の仕方等、児童の実態に合わせ、考えたことが視覚化、文章化されるよう手立てが打たれている。

3つ目は、児童が自分のこととして考えられていることである。「本当の自由とは何か」というテーマに対し、子どもたちは、自由でも、きまりを守ろうで完結しない、自由だから周りの人のことを考えて行動しようと考えている。また、実践者が自分事として捉えられるよう、問いの持たせ方を工夫していることも特徴である。その中で子どもたちは周りの人たちの意見を聞くことで、自分の意見と他の人の意見を比較しつつ、自分はどのように考えるのか明確にしている。

以上の比較からはもう一つ大事なことが見えてくる。それは、2つの授業が具体的な活動は異なっているとしても、授業の構成に大きな違いがないことである。学習支援ツールが異なっても、道徳の授業の基本的構成は変わらない。このことはポジティブにとらえて良いのだろうか。あるいはこれまでの道徳の授業を超えられない限界としてネガティブに見なくてはいけないのだろうか。道徳の教科化が、道徳を変えることよりも、道徳教育の徹底にあるとするならば、どのようなツールを用いても基本的な枠組みを壊さないで授業を作ることのできる教師たちの授業力は、多様な学習支援ツールを用いた授業を行うベースの力と言ってよいだ

ろう。河村教諭も高田教諭も、子供たちが“考え、議論する”ために、次々に学習を支援するツールを繰り出していく。それは2つの授業が、学習支援ツールありきではなく、子供たちが“考え、議論する”ためにそれらのツールを活用した授業であることを示しているのである。

## (2) 道徳の学習支援ツールの意味 ―自分が実践した手立てから―

ここで評者自身の実践に関してもいくつか述べたい。

現在の在籍校では、「主体的に伝え合い、考えを深め合う子」をテーマに研修している。本年度は、校内研修の一つとして第2学年の資料「水の広場」(出典:みんなの道徳)について研修を行った。資料は、主人公の迷う気持ちやその理由を考えることを通して、主題である善悪の判断や自律、自由と責任といったねらいに迫るものである。授業内でも、子どもたちの実態に合わせた手立てを講じた。

### ①振り返りシートの活用

研修開始当初は、感想を書くことに特化した振り返りシートを使用した。文章を書ける児童も増えてきたため、視点を設定し、書く内容を絞るようにした。(図1)書く内容が絞られることで、友達の意見と自分の意見を比較し、思ったことや感じたことの記入につながった。(図2)振り返りシートは毎時間記入をしていき、これまでの振り返りシートをファイルに蓄積していくことで、学習の足跡を残すようにした。



図1 振り返りシート

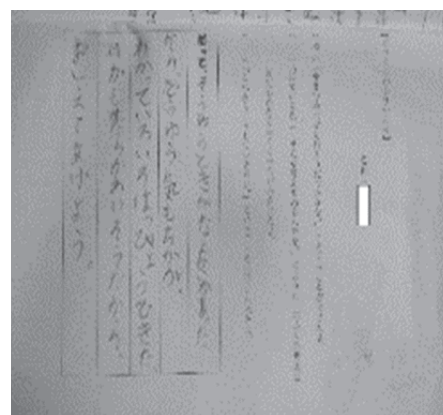


図2 記入例

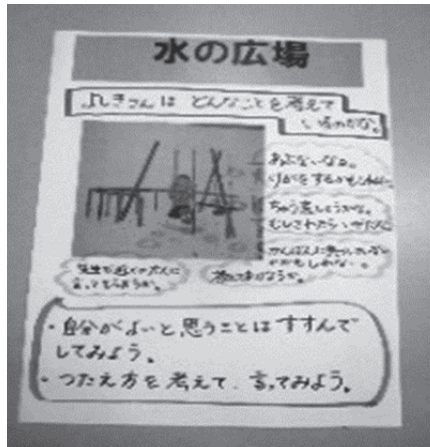


図3 学習内容の掲示①

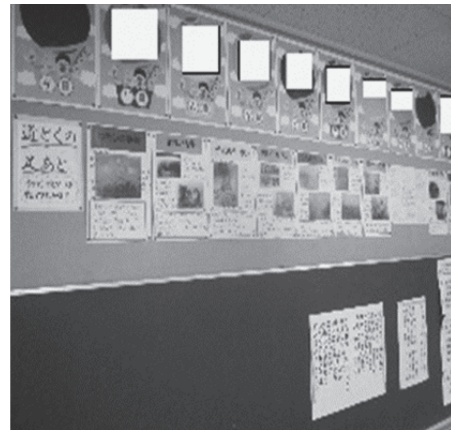


図4 学習内容の掲示②

## ②道德の足跡（掲示物）の作成

学習した内容を教室に掲示していくことで、どのような学習を行ったのか一目で分かるようにした。意見や考え、その日大事だと共有した内容を書いておき、いつでも全体で振り返られるようにした。（図3、4）

以上の2つの学習支援ツールは、道德の学習を授業で完結させず、子供たちの生活とつなげ、次の学習につなげることをねらいとして用いたものである。道德の学習支援ツールは、道德の学習活動を直接支援するものばかりではない。道德を学習するベースを作ることも大切な学習支援なのである。

## （3）まとめ

「考え、議論する」道德を行うため、日々、教師は子どもたちの実態に合わせ、様々な手立てを行っている。本報告のディスカッションが更にそうした意識を高め、それらを積極的に共有してい

く一助となることを強く願っている。（吉田今日子）

## 6 ディスカッションⅡ 研究者の立場から

道德的な議論は難しい。道德を題材にした議論で良しとするのか、道德的な発達を促す議論にするのかで、全く違ってくる。道德性の発達を目標とした道德の授業モデルとして、モラル・ディスカッションを提案したコールバーク自身が、モラル・ジレンマ教材を用いるだけではモラル・ディスカッションができないことを認めているのだ。今回提案された河村実践と高田実践は、そうした難しい「考え、議論する道德」の授業の未来像を占う意味でも大変刺激的だ。

## （1）提案授業の概要

河村実践は、個人用ホワイトボード（クリップボード）を活用し、それぞれが自分の考えを言語化し、友達に対して見える化することによって、

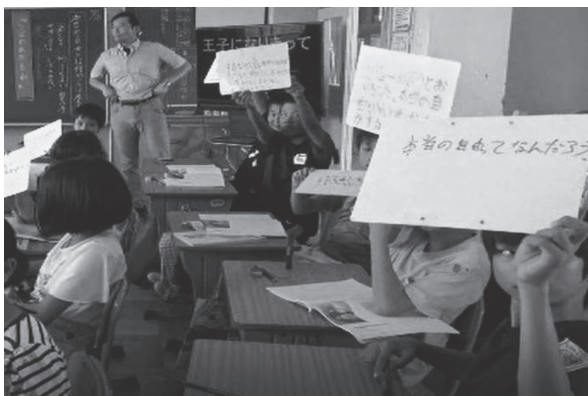


図5 提案授業の様子①

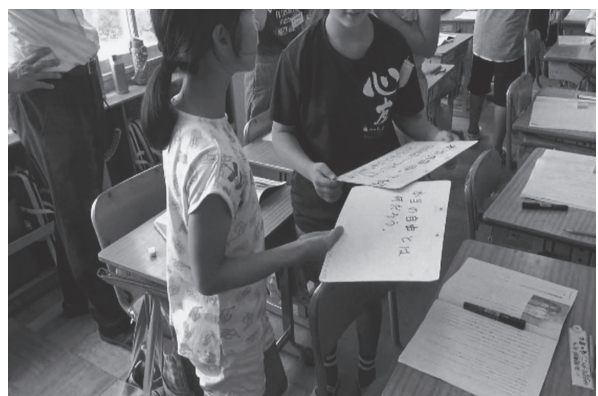


図6 提案授業の様子②



一人一人が自分の考えに基づいて友達のことを聞くことができるような工夫がされていた。通常多くのクラスの授業では、話し合いはペア、班、クラスといった単位で行われ、そのグループは教室という構造が用意されたものになっている。河村実践は、子供たちが教室中を自由に歩き回って自分がもっと知りたいと思う意見について聞くことができるように、個人用ホワイトボードを持ち歩かせた。このことによって、子供たちは、より主体的に、かつ目的的に友だちと意見交換をし、議論していた（図5、6）。

高田実践も、子供たちの主体的な議論を生み出すという目的は同じであり、教師を中継させずに、子供たちだけで自由な話し合いを展開することを促している。もちろん子供たちだけでといっても教師が何もしていないわけではない。高田教諭が利用しているものは、道徳ノートと心を可視化するバロメーターと板書である。道徳ノートは話し合いのために自分の意見を文字化させ、自分自身でも確認できるものにするツールであり、心のバロメーターは自分自身の気持ちを自覚すると共に、友達の意見を参照するためのツールである。板書は、最近の多くの教室で見かける道徳の授業の板書とは大きく異なるものであった。最近の教室でよく目にする板書は、時間経緯に沿って発表された意見を順々に列挙していくだけのものが多くなっているが、高田教諭は、子供たちの意見の相互の関係性を重視し、書く位置を変えたり、線で結んだりして、子供たちが友達の意見と自分の意見の関係づけをできるようにしている（図7）。高田教諭が授業で用いた3つのツールはいずれも、心を可視化するツールと言って良いだろう。

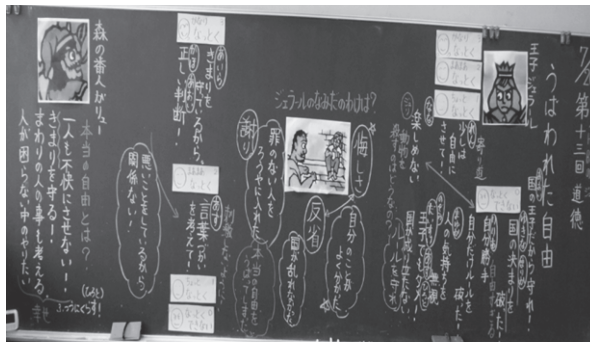


図7 提案授業の様子③

## （2）書くことの意義

2つの提案授業には共通点がある。それは議論に入る前に書く作業が取り入れられていることである。

河村実践では個人用ホワイトボードに、高田実践では道徳ノートに、子供たちは自分の意見を書いてから話し合いに入っている。これは、自分の意見を持つことが話し合いに不可欠だからだろう。しかし、重要なことはむしろ二人の実践者が個人用ホワイトボードと道徳ノートという異なるツールを用いている点である。

河村実践では、その後、子供たち一人一人が自分の考えを追求していく旅に出かける。書き終わった後のボードは、自分のためのものではなく、友達のための灯台や標識のような役割を果たすことになるのだ。高田実践でノートが用いられているのは、自分の意見を書いた後に、友達の意見を書き込むことができるからであり、黒板が教室の代理空間であるのと同じように、ノート子供たちの学習の代理空間として利用しているからなのである。書くという同じ行為を重視しても、全く異なる機能をそこに付加して、その後の展開に活用していることがわかる。

以上のように、書く作業には意味がある。しかし、今回の実践を通じて、書く作業に関わって気になってきたことがある。それは、書くことが当たり前化されてしまうことに対する危惧である。この形態の授業では、書く作業は、その後の議論への一人一人の子供の参加を決定する重要なものである。しかし、そもそも自分の意見は、簡単に言語化できるものではない。豊かに感じ、学ぶものが多ければ多いほど、限られた時間で、ことばにすることは難しい。書くことを強いられることで、言語化できる意見になってしまうおそれはないだろうか。更に、その意見に基づいて説明することが求められることで、考えが広がるよりも、書いた考えに執着することになりはしないだろうか。書く行為は精神分析学的に見れば、負の側面を伴っている。子供の成長に寄り添う立場にある授業者は、そうした面に十分自覚的でなくてはならない。自分の意見を書く場面を固定せず、いつでも思いついた時に書くことができるような、柔軟な運用ができれば、この問題は回避できるだろう。道徳ノートが手許にあることは、そのためのチャレンジとも言える。



### （３）議論の方向性の違い

２つの実践で用いられているツールの違いは、２つの授業が目指す議論の違いでもある。高田実践は、みんなで一緒に学ぶことができる教室のメリットを活かして、みんなで了解可能な道德的価値に到達することをねらいとしてきた日本のこれまでの道德教育のスタイルを踏襲したものと理解できる。高田実践では、道德の学習過程そのものが、合意形成の学習と重なっている。当然教師の役割も、合意形成を促すことにある。

一方、河村実践では、他者との議論という活動は行われているが、子供たちはそこで了解可能な道德的価値の生成に至ることを期待されていない。子供たちに期待されるのは、徹底的に自分の道德的な考えを熟成させることなのである。その意味では、河村実践の方が、新しい道德がねらいとするものに忠実と言えるかもしれない。河村実践は従来の道德の授業を徹底的に破壊し、振り切ってしまった授業なのである。

つまり、２つの提案授業はいみじくも、道德教育が進みうる相反する２つの方向性を示唆するものとなっているのである。もちろん２つは排他的な関係ではなく、１年間の道德の学習の中で相補的に実践されるべきものと言えるだろう。そのためにも２つの実践のもつ意味を正確に把握し、計画的に実施することが重要である。

### （４）教師の立ち位置の違い

最後に、両実践における教師の立ち位置について確認しておきたい。子供たちの議論に対する教師の立ち位置も２つの実践は大きく異なっている。河村実践では教師は常に子供たちの議論の外部にいるのに対して、高田実践では教師は黒板という教室の代理空間に積極的に関与することで、子供たちの議論に参加している。教師が子供の議論に加わることについては賛否が分かれる。子供が自分の考えや本音を率直に発言するためには、教師が発言しない方が良いという、一見もっともらしく聞こえる意見もある。しかし、それは、教師と子供たちの権力関係を前提にした意見であり、その関係によって子供たちから自分の思考を助ける教師の意見という学習支援ツールを奪っているのである。教師の存在は言うまでもなく、子供たちにとって最高の学習支援ツールである。それを子供たちが積極的に活用できる授業もあって

良いだろう。教師の意見は正解でもゴールでもなく、子供たちが乗り越えていくべきものなのである。（紅林伸幸）

### ７ 子供らの未来に向けて 新しい道德の授業構想

本報告では、道德の学習支援ツールに注目して、新しい道德の授業の可能性を確認してきた。しかし、本来の意味では、学習支援ツールが先にあって、それに基づいて授業が作られるようなことはあってはならない。学習支援ツールはストックされているべきであるが、それは目的に応じて使用されなければならない。だからこそ、より多くのレパトリーのストックが必要なのである。

ただし、本稿で議論してきたように、ツールは、実践者の道德の授業の展開を方向づけ、制約する力も持っている。その意味で、現在の道德の授業は限られたツールに制約されているのだ。その状況を抜け出すことが、道德の授業の可能性を豊かなものにする。例えば徹底して個人の道德性を高める道德の授業、例えば友達と一緒に了解可能な道德性を自分の中に作る道德の授業、ツールを利用することでそうした方向性を明確にして授業を構成することができるのである。道德の授業の可能性を広げる学習支援ツールの活用に、どんどんチャレンジしていくことが今学校現場では必要なのである。（紅林伸幸）

### 参考・引用文献

- 赤堀博行 2017『「特別の教科道德」で大切なこと』、東洋館出版、p45
- 紅林伸幸 1992「物象化理性と道德性問題－コールバーグ道德性発達論をこえて－」東京大学教育学部紀要第32巻 pp.147-155
- 紅林伸幸、鈴木和正、川村光、越智康詞、中村瑛仁、富江英俊 2017「小・中学校における教科化前の道德の授業の実施状況－2016年度質問紙調査の結果から－」常葉大学教育学部紀要第38号、pp.133-155
- 野崎真奈美、紅林伸幸 2016「舞台の力－道德教育のできる教室のための基礎理論－」常葉大学教育学部紀要第36号、pp.49-77
- 文部科学省 2014「道德に係る教育課程の改善等について（答申）（中教審第176号）」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/)

chukyo/chukyo0/toushin/\_\_icsFiles/  
afieldfile/2014/10/21/1352890\_1.pdf

【付記】本研究は JSPS 科研費 JP16H03788 の助成  
を受けたものである。